



KICK OFF 通信

AIは人間の能力を超える！？②

◆読解力につき要因となるもの

前号では、AI(人工知能)によって淘汰される仕事や人材に触れながら、私たち自身がAIと共存していく必要性について触れました。そしてそのための前提として、コミュニケーション能力を高めることも強調させて頂きました。

国立情報学研究所の新井教授は、いつの時代からか、教科書を読む能力が低下してきていると、警鐘を発しております。私達もよく早とちり、早合点など、問題を読み違えて減点され、悔しい思いをした経験がありますよね。いかに限られた時間で、迅速かつ的確に読み答えられるか、ここがキーポイントとなります。

そこで新井教授は様々な仮説を立てました。すなわち、子どもの生活習慣上、①1日の勉強時間、②スマホの使用時間、③新聞購読、④得意・不得意科目、⑤読書習慣、等々が読解力とどんな相関関係を持っているかです。しかし、そのいずれを取っても明確に「こうだから読解力に差が出る」、といった答え

を見つけ出すことは出来ませんでした。

◆戸田市の挑戦は続く

3年ほど前から戸田市では、同研究所が考案した読解力テスト(以下、RSTと呼ぶ)を実施しております。昨年度からは、小学6年生および中学1～3年生全員が受験しました。

このRSTは、文構造、同義文、推定など私たちの読解プロセスに欠かせない6つの課題を設定して、4つの中から1つの正解を選ばせる形式です。中には、曖昧な言い回しや選択肢があったりして、結構引っ掛かり易い面が散見されます。そして、先生自身もこのRSTを受験してみて、実際にどの部分で生徒たちがつまづくのか気付かされることも多い、と言及しています。

ところで、埼玉県では独自に「学力学習状況調査」を行っておりますが、RSTを実施して以来、何と戸田市が総合1位の成績を収めました。これはやはりRSTへのアプローチが、功を奏したと言えるので

はないでしょうか……。

◆RSTから認識できるもの

そもそも戸田市が目指すのは、「全ての生徒が中学校卒業段階で、教科書を正しく読めるようにする」こと。それにつき、RSTを用いて評価しながら、傾向と対策を施していこうとしております。

読解力アップが、全ての学力向上に結び付くとは言い難いでしょう。しかし、RSTの経験を通じて、粘り強さ、やり抜く力が育っているという実感が戸田市でもあるようです。また、授業内容の改善にも繋がっておりますので、生徒にとって理解し易い学習環境が整いつつあると思えます。

昔から「読み・書き・ソロバン」と言われておりますが、「読みと、書き」は背中合わせではないでしょうか。長文読解などは、まさに筆者の気持ちになって解くわけですので、書く側の目線にならなければなりません。書く訓練を重ねていくと、必ずといって良い程、読解力が身に付くと断言できます。

【プロフィール】

- 昭和37年 7月28日 北海道生まれ 藤沢育ち
神奈川県立湘南高校・慶應義塾大学卒業後、サラリーマン生活を経て代議士秘書に…
- 平成 4年 「税は政治なり、税は国家なり」との思いで始めた税理士試験に合格
- 平成 7年 県議会議員初当選～平成19年まで連続3期
平成19年 第21回 参議院議員選挙 当選
予算委員会・ODA委員会などの理事を歴任
- 平成26年 第47回 衆議院議員選挙 当選
総務委員会 & 沖縄・北方領土特別委員会 両理事
民進党・副幹事長 エネルギー調査会事務局次長
- 平成29年 第48回 衆議院選挙に出馬せず下野する
平成30年 一般社団法人 人づくり・国創り研究会を設立



前衆議院議員 / 元参議院議員